香吟聚(仮)

香坂

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト http://pdfnovels.net/

注意事項

は「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒ 囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致し ナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範 テ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。 この小説の著作権は小説の作者にあります。 このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タ 小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。 そのため、作者また

【小説タイトル】

香吟聚 (仮)

【ユーロス】

N 3 9 9 Y

【作者名】

香坂

あらすじ】

古を慕い折にふれて詠んだ和漢の詩ども。 超不定期更新。

絶句

襲 春

青柳之姿昂 間雲浮蒼昊

夢浅驚鶯囀

襲春愁満昌

間雲蒼昊に浮かびて

春を襲ふ愁ひ満ちて昌んなり夢浅うして鶯囀に驚き青柳の姿昂たり

間雲 閑雲に通じる。 静かに浮かぶ雲。

蒼昊 青空。

昂 あきらか。

鶯囀 ウグイスのさえずり。

独演

未識己之狂 言溟溟独語

如酔淆真詐

何時知演傷

いつか知らん傷みを演べたると酔ひたる如くして真と詐を淆ふ未だ識らず己の狂を書いる。

溟溟 くらい。

小人嘆息

天覆無人心迹弧却嘆故弱昧蒙痩

天覆人無く心迹弧なり オ華就らず知己寡し まいます すくな まいまして痩せたるを却って嘆く弱きゆゑ昧蒙にして痩せたるを功名を志すといへども年少の徒

味蒙 蒙昧。くらい。おろか。

オ華 才能。

天覆 天のした。

心迹 心跡に同じ。心とそれによる言動。

短歌

春ぞとふ峰の白雲花かとぞ見てし年月いくへなるらむ

うつろへばまたたれかとはむ桜花人待てがちにながめてぞ見る

桜花うつろひにけりなかきくもり日影の落つる世のけしきかな

忘るなよ春の夜の月いくめぐり袖置く露の払ひはてぬも

つれなくも宿るや袖に月影のしげかる露の絶え間なきまで

寄秋風恋

秋風の吹くるよるよる離れにけり昔の月もまた見まくほし

絶句

夜在茅屋思物

我欲何之邪不識 冬月凛然幾許充 嵐声遠夜半寒空

冬月凛然幾許かくてい嵐声遠し夜半の寒空

心唯惑乱破窓衷

我は何 </ r > < r p >) b > u b p > < У > r b u b ソ ^ 之かんと欲するや知らず р > ^充(み)つ < r t > いずくに **<** /

心唯だ惑乱す破窓の衷 ^ v r p ^) v / r p

嵐声 嵐の音

凛然 冷たく厳しいさま

破窓 破れ窓

淚下

為誰濕袖頻 其眸無映者 君想何人歟

涕淚跡常新

涕涙の跡常に新たなり 其の眸に映ずるは無くて 誰が為にか袖を濕らすことの頻りなる 誰が為にか袖を濕らすことの頻りなる

涕淚 なみだ。

仏足石歌

たまざさの身を切りぬべく唐衣たちそふるかと見てしくれなゐ浅く

そむるや

短歌

あふことも渡しもはてぬ葛城や夜ごと漏りくる波の架け橋

いそのかみふる年ごとに老いつもる思ひも雪と消えなましかば

はかなくぞ待ちわびぬれば面影の夢路にかよふここちこそすれ

独り寝る片敷き衣風寒みなげきわびぬる夜は幾重ぞ

面影不留といふ心を

我が袖に宿るや影ぞとめられぬこほり閉づるは涙のみして

あかねさす日影も空になしはてて暗き道にぞ入りにけるかな

君をこふあまりに涙の満ちぬればみをつくしをもしずめけるかな

秋風に庭の蓬生なびくとも待つとしせしまのゆふぐれの空

PDF小説ネット発足にあたって

ビ対応 行し、 公開できるように 小説家になろうの子サイ 部を除きインター 最近では横書きの F小説ネッ の縦書き小説 の縦書き小説 います。 そん をイ を思う存分、 たのがこ な中、 ネッ 書籍も誕生しており、 タテ書き小説ネッ ト関連= 誰もが簡単にPDF形式 ネッ て誕生しました。 ト上で配布す 小説ネッ 横書きという考えが定着しよ てください。 トです。 既 は 2 0 存書籍 タ いう目的の基 07年、 の電子出版 小説を作成 小説が流 ンター

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。 http://ncode.syosetu.com/n3999y/

香吟聚(仮)

2011年12月24日06時00分発行